

## 女性歯科医師の活躍に関するワーキンググループで議論すべき論点

## 1 女性歯科医師が育児や介護に際しても継続して就労するために必要な体制整備について

## 【課題等】

- 支援制度が少ないため、常勤歯科医師として継続して勤務することが困難である。(参考3)
- 女性の継続勤務のための支援制度の導入が遅れている。(参考4～6)
- 女性歯科医師の実態把握のために、どのような調査が必要か。

## 【今後の取組の方向性】

- 働き方、働く場所等、フレキシブルな勤務形態を提供する必要があるとの指摘もある。
- 託児所付きの歯科診療所へのニーズが増加しているとの指摘もある。
- 妊娠・出産の時期と研究者としてキャリアアップの時期が重なることから、例えば、キャリアパスが続くような研究課題の提案、研究支援リサーチアシスタント制度等が、キャリアサポートの仕組みが必要なのではないかと指摘もある。
- 女性歯科医師の支援を円滑に進めるために、現状の把握が重要であるとの指摘もある。

## 2 出産等に伴い比較的早期にキャリアを中断した歯科医師等の復職にかかる支援制度について

## 【課題等】

- 就職活動が知人の紹介等に依存するところが多く、体系的な就職・復職支援等の取組が不十分である。(参考7～8)
- 新たな知識・技術等を習得できる研修等の取組が不足している。

### 3 ライフイベントに合わせて、働き方を柔軟に変化させることができる支援体制等について

#### 【課題等】

- 歯科診療所の事業規模は小さいものが多く、各診療所単位で新たな歯科専門職の雇用や非常勤雇用の機会を増やすことは困難である。(参考9)
- 自分の年齢やライフイベント等の変化に合わせて、働き方等を柔軟に変化させるためには、多様な選択肢が用意されていることが望ましい。
- 規模の小さな事業所における働き方支援の取組状況等を他の事業所と共有する機会が少ない。
- 歯科医師の臨床経験や専門性、歯科診療所の勤務条件等に応じた需給の現状が明確ではない。
- 一定の臨床経験を有する歯科医師には、訪問歯科診療、麻酔、矯正等は非常勤でのニーズも高いため、キャリアプランを考えるうえで有効ではないか。ただし、訪問歯科診療を提供するためには、基本的な歯科診療の技術に加えて求められる知識や技術を習得する研修の場が必要である。

### 4 女性歯科医師がキャリアパスを描けるような卒前教育や臨床研修について

#### 【課題等】

- 若年歯科医師の有給常勤ポストが少なく、多様なキャリアパスが描きづらい。
- 同じ職場等の身近な環境に年齢の近い先輩歯科医師がいないためイメージが湧きづらい。